

### \* 岡山天文博物館開館記念絵葉書を収蔵

ある人が祖父の名前である「布川銀次郎」をインターネットで検索したら、このアーカイブ新聞がヒットし、祖父のことが知れたとメールをいただいた。その記事はアーカイブ新聞第881号(2015年12月2日)で「岡山天体物理観測所の1960年の写真(東京天文台100周年記念誌資料1-20)」であり、その人の祖父はこの記事の中に出てくる、当時東京天文台事務長であった布川銀次郎氏であった。その方に、筆者の収蔵品の中の布川氏の退職記念写真と思われるものをお送りしたところ、まさしく「祖父布川銀次郎」であると確認をいただき、アーカイブ新聞第951号(2016年8月15日)に「東京天文台事務長布川銀次郎氏の退職(昭和39年)の記念写真」という記事を書いた。

これを機に、祖父布川氏の残されたものの中に、当時の貴重な資料が残されていないかとお尋ねしたところ、布川氏のご長男、メールをいただいた方の叔父にあたる人が持っておられた「岡山天文博物館開館記念絵葉書セット」(写真1)が送られてきた。

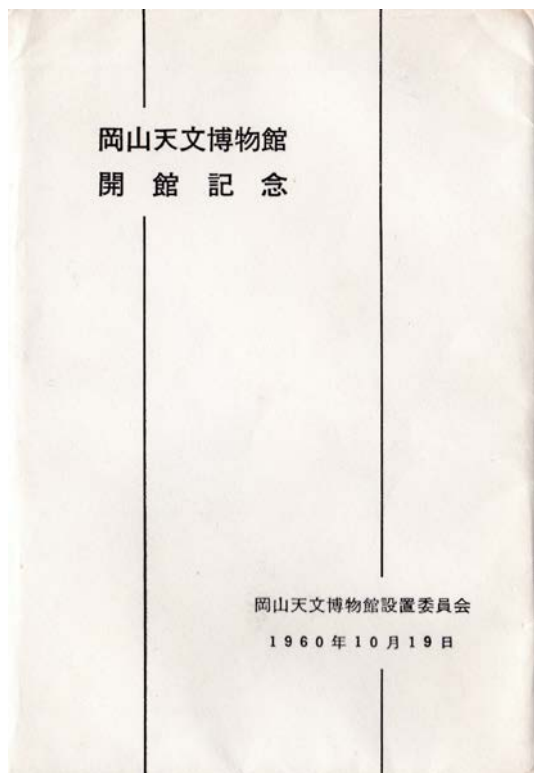


写真1 岡山天文博物館開館記念絵葉書

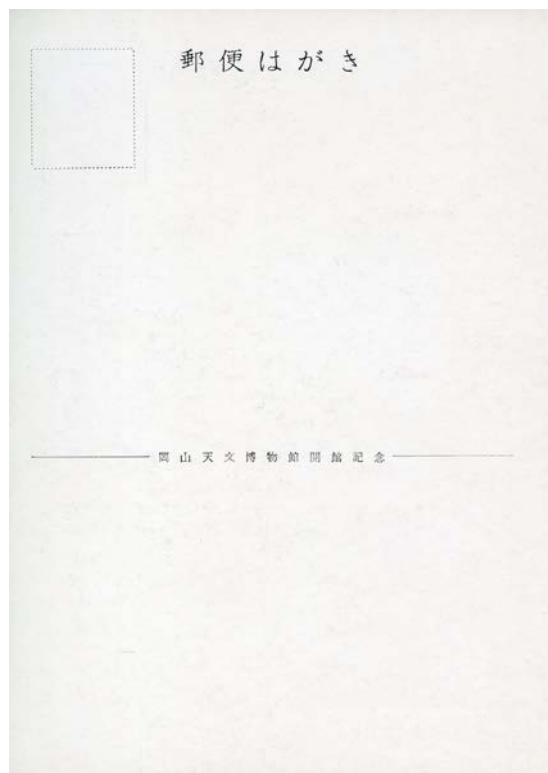


写真2 絵葉書のはがき面

岡山天文博物館は、1960年に東京大学東京天文台が、日本一観測条件が優れている場所として岡山県南西部の竹林寺山頂に建設した岡山天体物理観測所の建設に合わせて、岡山

県を中心とした岡山天文博物館建設委員会が建設したものであった。岡山天体物理観測所は、戦後の東京天文台の復興に尽力された萩原雄祐台長の構想の下に、日本は世界の鼎の3脚の一つの地理的条件を持ち、世界に伍して観測天文学ができねばならないとして実現し、1960年10月19日に開所式を行った。この絵ハガキセットにもその日付が記されているが、この絵ハガキセットの岡山天文博物館の建物はまだ建設中の写真である（写真3）。



岡山天文博物館（10月上旬建築中）

写真3 建設中の岡山天文博物館

岡山天文博物館の右肩上に、当時世界で7番目の口径を持った188 cm反射望遠鏡ドームが見える。この絵ハガキセットは5枚組になっており、写真3、4、5、6、7である。



美しい瀬戸内海を見はるかす東京天文台岡山天体物理観測所

写真4 瀬戸内海をバックにした188 cm望遠鏡ドームと91 cm望遠鏡ドーム



写真5 188 cm望遠鏡とドーム



写真6 91 cm望遠鏡とドーム

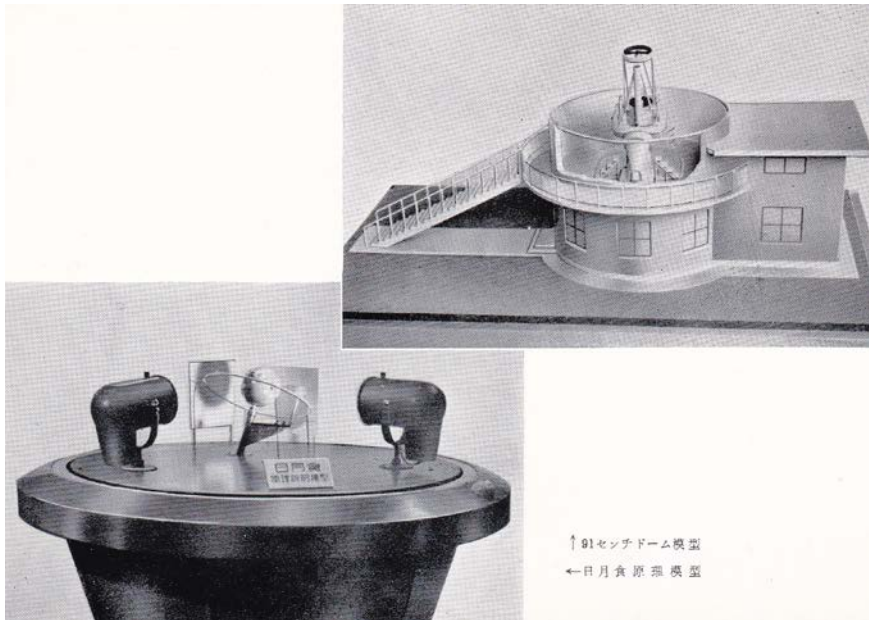


写真7 91 cm望遠鏡ドーム模型と日月食原理模型

この絵ハガキセットは、開館記念としてあるが、建物は建設中の写真だし、91 cm望遠鏡ドームの模型の写真もまだ製作途中のものようである。この絵ハガキセットは岡山天体物理観測所開所に合わせ用意されたものようであるが、1961年3月に岡山天体物理観測所に勤務を始めた筆者も初めて見るものであり、今迄に収蔵した絵葉書の中にもなかった貴重

なものである。このようにアーカイブ新聞が縁になって東京天文台にかかわる資料の提供が実現していく、喜ばしい限りである。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)